

ORPANOZ

ウーラノス February 2007

Vol. 24

特集 NEW WAVE TGU

- 小学校の英語教育は必要か? - 1
- 歴史を伝え、今に導く - 3
 - 学長室より - 4
- 協奏、そして共創へ - 5
 - 学生インタビュー - 6
- 学部より - 7
 - 大学院より - 8
- 同窓生を訪ねて - 9
- ゼミナールレポート - 10
 - 就職部より - 11

特集——小学校の英語教育は必要か？

小学校の 英語教育は必要か？

国際社会で通用する英語力を身につけるために導入が検討されている「小学校の英語教育」。中学から始めるのでは遅いという理由の信憑性^{しんぽうせい}、現在の中学・高校の英語教育の指導法などを検証しながら、日本人の英語力を高めるために小学校ですべきことを考えます。

文学部 教授

むらのい ひとし
村野井 仁



**英語教育に求められるのは
時期を早めることなく質の向上!**

小学校に英語を教科として加えようとする動きが活発になっています。それに反対する声も強く、小学校英語教育はまさに混沌の状態にあると言えます。果たして現在の状況で小学校に英語を教科として導入することは妥当なのでしょうか。よく考えてみるとかなり無理があると言わざるを得ません。導入賛成派の主な主張を検討しながらこの問題について考えてみます。

〈賛成派の主張1〉これまでの日本の英語教育では英語が使えるようにはならない。だから、小学校から英語を始めるべきだ。

この主張のおかしさは、誰でもすぐ気づくはず。問題があるのは中・高・大の英語教育です。そこにある問題を棚上げにして、小学校で英語教育を始めようとするのは責任転嫁以外の何物でもありません。英語指導



法、授業時間数、教科書、入試方法などを抜本的に改善しない限りは、たとえ胎児期から始めても英語が本当の意味で使えるようにはなりません。

〈賛成派の主張2〉言語習得は早いうちから始めないと手遅れになるから、少しでも早く始めるべきだ。

この主張をする人の多くが臨界期仮説を口にしします。人間はある時期を超えると自然な言語獲得ができなくなり、母語話者のように話せるようにはならないという考えです。こんな「理論」を振り回されると、特に親は手遅れにならないようにと焦ってしまいます。でも、落ち着いて考えなければなりません。手遅れになるかもしれないのは母語話者になることなのです。流暢な第二言語使用者にはいつから始めてもなれるのです。それぞれの人が自分の個性を大切に、世界のさまざまな人々と付き合っていくとするのであれば、むしろ特定の母語話者と全く同じようには話さない方がいいのです。日本的な英語ではあるけれど、世界に飛び交ういろんな英語がしっかりと理解でき、自分の言いたいことは誤解されることなくちゃんと英語で伝えられる、そんな英語力を私たちは身に付けるべきだと言われています。そのような英語はいつから始めても、動機があって、学習法・指導法さえ間違えなければ数年間で十分身につきます(それを示す証拠はたくさんあります)。指導法や指導理念をよく知らない教師が下手に英語を教えて、英語に

対する歪んだ姿勢を幼い子どもにすり込むことの方にこそ気をつけるべきでしょう。

まずは異文化を理解し、異なるものを受け入れる姿勢を育てること!

それでは、日本人の英語力を上げるために小学校では何をすべきなのでしょう。それは異文化コミュニケーションの土台を作ることです。人間は一人一人大切な存在であることを知り、姿形や話し方などが違っていても同じ人間として対等に付き合える姿勢を育てることが最も大切です(いじめの問題と深くつながっています)。この姿勢が欠けていればどんなに英語がうまくても、その人にはさびしいコミュニケーションしかできません。このような土台を作るために、現在の「総合的な学習の時間」の中に異文化理解教育をうまく取り入れてほしいと思います。国際交流活動や調べ活動を通して、異文化間コミュニケーションの楽しさ、大切さを子どもたちが肌で感じ、異なる人たちに対する寛容さを育てるきっかけを作してほしいと願います(本学でも学生と留学生を小学校に派遣する活動に取り組んでいます)。

小学校英語教育を議論する際には、ただ闇雲に早く始めた方がいいという単純な発想によるのではなく、競争ではなく、共生のために英語教育はあるという視点に立ち、子どもたちにとって何が大切なのかを冷静に考えて判断すべきだと強く思います。

杉山元治郎の受洗

経済学部教授 ^{いわもと} 岩本 ^{よしてる} 由輝



杉山さんの受洗を執り行った皆田篤實牧師

浄土真宗門徒の家庭に育った杉山元治郎さんがキリスト教に接したのは、1900年4月に甲種農学校である大阪府立農学校（現大阪府立大学農学部）に給費生として入学し、寄宿舎生活を始めてからのこ

とです。その際、杉山さんが幼い頃から、「耶蘇は悪い」、「耶蘇は可愛い」と言っていた祖父の茂平さんが、農学校入学直前の3月17日に亡くなったことも、杉山さんに宗教的な開放感をもたらしてくれたようです。

寄宿舎では、日曜日には外出許可が出されます。そうすると、寄宿生たちは大阪の盛り場などに繰り出します。しかし、真面目な杉山さんは、当時の南区綿屋町（現中央区島の内1丁目）界隈で、キリスト教会を見つけました。これが祖父が言っていた「日本の国をとる恐ろしい悪い人達の集まる所」かと思ひ、こわいもの見たさで、のぞいてみたのだと、杉山さんは述懐していますが、集まっている人たちは、「悪い恐ろしそうな人相」などしておらず、「むしろ善さそうなインテリらしい人達」である

のに気づき、祖父の言っていたことはまるで違うという印象を持つことができました。

この教会が、日本基督教会大阪南教会（現日本基督教団大阪南吹田教会）でしたが、杉山さんは、それから日曜ごとにそこを訪れ、「入口の座席」で、そっと説教を聞くうちに、「耶蘇は二千年前にいた実在の人」で、「我々の罪の身替りに十字架にまで掛かってくれた」ことを知るに及んで、会場の入口ではなく中程まで進み、説教を熱心に聞くようになりました。その頃になると、顔見知りの人でもでき、言葉をかけてくれる人も増えてきて、とくに竹内豊秋（狐梅）という親切に導いてくれた青年画家の勧めもあって、杉山さんは皆田篤實牧師によって受洗し、クリスチャンとなりました。この間、農学校の布施常松という実習主任の先生が、内村鑑三の無教会主義の信奉者でしたが、杉山さんはこの人からも宗教上の感化を受けております。

杉山さんは、農学校で、明治農法確立期における当時としては最新の農業技術を身につけて卒業しましたが、それが、1910年7月、福島県相馬郡小高町（現南相馬市小高区）の日本基督教会小高教会牧師として赴任し、農村伝道を進めるとき、大いに役立ち、杉山さんの名前を広く知らしめることになりました。



杉山さんが通っていた当時の大阪南教会

From the President.

学長室より



学長 ほし みや のぞむ 星宮 望

東北学院大学のキャリア支援

—就職支援そして生涯的なキャリア教育—

それぞれの大学において個々の大学の建学の精神に立脚した教育の目標やその具体的なカリキュラムの内容が問われていることは当然です。最近では、これらの教育内容に加えて、さらに卒業後の就職の内容も大きな関心と呼んでいます。すなわち、18歳人口の減少などによって、これまでの入学者選抜を重視した「入口管理」から、卒業生の質に注目した「出口管理」へと大学の力点がシフトしてきているといわれています。学生に対する教養教育や専門教育の内容とその成果を問う声とともに、就職を巡るそれぞれの大学の取り組みと、その成果に大きな注目が集まるようになってきています。これまでは、大学卒業時にどのような職業に就くかが大きな問題でしたが、最近では、その他に、長期的な観点からの大学卒業後の再教育、さらには人生設計や生きがいへの取り組みについても視野に入れて支援すること、

すなわち、キャリア支援の良否が関心を集めているように思われます。

このような背景を受けて、IDE大学協会東北支部・東北大学高等教育開発センターの主催により、平成18年11月9日に仙台ガーデンパレスにおいて、平成18年度IDE大学セミナーが開催されました。本年度の、このセミナーのテーマは、「学生の就職支援とキャリア教育を考える」でした。基調講演では、味の素(株)顧問(元副社長)の山野井昭雄氏に「産業界(日本経団連の会員企業群)から見た技術系新入社員の特徴と支援対策について」と題したご講演をいただき、続いて、東北大学・岩手県立大学・東北学院大学・石巻専修大学における取り組みが報告されました。本学の就職部長の高橋彌穂教授(教養学部)も「対話形式の双方向キャリア教育カリキュラム—東北学院大学の一例—」というタイトルで報告しています。

本学においても、徐々に、キャリア教育・キャリア支援の重要性が認識されつつあります。もう一つ本年度本学が実施した例を挙げましょう。

東北学院大学卒業後、高等学校などで教職についている多くの同窓生がいます。彼ら・彼女らに、卒業から年月を経てからでも新しい学問の取り組みに触れてもらうことが重要であると考えて、本学の文学部と教職課程センターの共催の事業として、「現職教員研修セミナー」を実施しました。

「英語講座」と「歴史講座」の分野をとりあげ、平成18年12月2日(土)12:40-17:40に土樋キャンパス8号館にて実施しました。これは、本年度から新たに設けた「学長裁量経費による戦略的事業支援」に基づくプログラムのひとつであり、新しいキャリア支援の一環です。今後もこのような取り組みを進めていきたいと考えています。

協奏

そして

共創へ

バッハ・コレギウム・ジャパン 《メサイア》開催



2006年の学内クリスマス行事をすべて終了し静寂の戻った泉キャンパス礼拝堂に12月23日、ヘンデル不朽の名作《メサイア》がドイツ語のテキストを伴って響きわたりました。東北学院の120周年記念行事の最後を飾るべく、イエス・キリストの誕生を待ち望むこの時期に最も相応しく選ばれた曲の公演に、関係者一同大きな期待を携えて臨みました。折しも生誕250年のモーツァルト編曲により、鈴木雅明氏率いるバッハ・コレギウム・ジャパンの合唱と管弦楽、4名のソリスト達が伝えた明確、静謐かつ力強い福音のメッセージは、仙台市内外からご来場いただきました多くの方々、同窓生、学院関係者の皆さまの心に深く

届くものであったと確信しています。《メサイア》に先立ちオルガン曲を演奏し、この年完了しました泉キャンパス礼拝堂オルガンオーバーホールのご報告とさせていただきます。本学では初めての大規模な有料演奏会開催のためにご尽力くださいました河北新報社（共催）、東北学院同窓会、仙台コンサートソサエティ（マネジメント）、情報科学菅原研究室（タイトル投影）、その他有形無形のご支援に対し、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

平成18年度卒業式 平成19年度入学式のご案内

平成18年度卒業式

日時:平成19年3月26日(月)

11時～12時30分

会場:仙台市体育館(仙台市太白区富沢)

平成19年度入学式

日時:平成19年4月4日(水)

10時30分～12時30分

会場:仙台市体育館(仙台市太白区富沢)

例年、東北学院大学の卒業式・入学式は、主役の卒業生、新入生のほか、来賓のご父母並びに先輩や後輩を祝福する在学生等に囲まれながら、キリスト教大学として、讃美歌を歌い聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

なお、会場には駐車場がございませんので、公共交通機関でのご来場をお願いいたします。

問い合わせ先 総務部総務課 TEL.022-264-6412
Email tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



平成17年度卒業式の様子



平成18年度入学式の様子



法学部法律学科 3年
はせ しおの

長谷 史織

留学期間:2006年7月25日~8月19日

2006年7月、私たちアメリカ研究のメンバー8名は憧れのアメリカの地を訪れました。まず初めにペンシルヴァニア州にあるアーサイナス大学で2週間お世話になり実際のアメリカでの生活や知識について学び、その後2泊3日のホームステイで一般家庭に仲間入りをしました。そしてワシ

アメリカの豊かな文化に触れて

—第34回アーサイナス大学夏期留学に参加して—

ントンD.C.、N.Y.では自主プランでの観光を行い、充実した約1ヶ月のプログラムを経験しました。この旅行の中で私は様々なことを学ぶことができました。特に感じたのは“笑顔”に国境はないということです。アメリカでは全ての会話は英語ですし、文化や風習の違いもあります。そのため“話したい!”という意欲はあるものの相手に伝わらないことや言葉が出ないという事は多々ありました。しかし、そんな時でも笑顔を忘れず、一生懸命伝えようと努力すれば相手は必ずそれに応えてくれます。初めは自分から話しかけることができなかつた私

も時が経つにつれ、いつの間にか自分から話せるようになっていました。ただ単に「海外に行ってみよう」、そんな気持ちで参加したこのプログラムでしたが、かけがえのない仲間と出会うことができ、国籍を超えた友情を築き、他国の生活や考え方に触れ、自分が一回り成長できたと実感しました。

行くまでは不安ばかりだったアメリカも終わってみれば楽しい思い出ばかりで“もったいなかった!”と思ったほどです。またアメリカに行った時のためにこれからも英語の勉強を更に頑張りたいと思っています。

学生インタビュー

INTERVIEW

英語を通じての比較文化

2005年度中国・南開大学派遣交換留学生

私は交換留学生として南開大学で英文科に所属し、一年間中国の学生と共に英語を勉強しました。おそらく、私が英文学科でありながら中国に留学することを不思議に思う人も少なくはないでしょう。それは「中国で英語がどのように教育されているのかを、そして中国の文化が英語を学習する上でどのような影響を与えているのか」という興味からでした。

今日、世界共通語としての英語は、日本だけではなく様々な国で第一外国語として認定され教育されています。もちろん中国も例外ではありません。そして中国の英語教育は日本よ

りも熱心です。例えば、近年小学校3年生から教科としての英語教育が始まり、中学、高校を通じても英語の授業量が年々増加している傾向にあります。さらに大学の英文科においては一年次からすべての授業を英語で行い、4年間で英語のエキスパートを作り上げるようなシステムになっています。実際に受講した通訳、翻訳、エッセイライティングなどの授業についてはただ教科書通りに進行する一方的な内容ではなく、学生も積極的かつ勤勉で、常に実践的に英語学習に取り組んでいることに強い印象を覚えました。



文学部英文学科 4年
おおもと ゆうすけ

大元 佑介

留学期間:2005年9月~2006年7月

この留学を通して、同じ英語を学ぶことでも国によって教育方法の違いを実際に肌で感じ、また中国の学生と一緒に英語を学べたことで日本と中国から見た英語圏の文化とその捉え方の違いを認識できたことは大きな収穫だったと思います。



文学部

英文学科は今

全国的に「文学部」が人気を落とし、受験生が減少している社会的状況のもと、本学の「文学部英文学科」が常に念頭に置いているのは、「英文学科ではどのようなことが学べるのか、英文学科教員はどのような研究を行っているのか」を広く学外の方に知って頂くことです。このような認識のもとに行われている活動を挙げてみます。

広報活動

英文学科のホームページ (<http://www.tsc.tohokugakuin.ac.jp/english/>) を開設するとともに、文学部の歴史学科、キリスト教学科と情報を共有することで「英文学科ガイド」の配布先を大幅に拡大しました。

文学部オープンキャンパス

本年度からの取り組みとして10月14日(土)に土樋キャンパスで開催いたしました。

高等学校へ出張授業

高校生の進路選択への一助として近年盛んになってきましたが、本年度には高等学校の「未履修問題」への対応によって、中止となったものがあつたことは残念です。

文学部公開講義

『言葉の多面性』というテーマに沿って、10月から11月にかけて、英文学科教員4名(村野井、阿部、ロング、遠藤裕一)と学外講師1名(東洋学園大学大西泰斗氏)によって行われました。

サテライト・キャンパス

「学都仙台サテライト・キャンパス」の一環として、6月および9月に、仙台一番町日専連ビーズを会場として、英文学科の「サテライト・キャンパス公開講座」が『文学と絵画の交渉』というテーマに沿って、英文学科教員7名(柴田、箭川、志子田、畠山、横内、森、遠藤健一)によって行われました。

現職教員研修セミナー

本学における初の試みとして、英語科及び歴史担当の中高教員に高度な専門的知識を学ぶ研修の場を提供すること、文学部の専門的研究の一端を地域の中高教員に理解してもらうことを目的として、文学部と教職課程センターの共催として12月2日(土)に開催しました。

経済学研究科



「通貨危機と 韓国経済の諸変化」をテーマに 韓日学術セミナー開催

セミナーは、朴光淳名誉教授（韓国の全南大学校）と野崎明教授（本学経済学部）の尽力により両大学共催で、全南大学校（韓国・光州市）において2006年5月24日～26日に行われました。本学経済学部の折原裕助教授をはじめ阿部文夫氏（経済学研究科博士課程前期課程、報告テーマ：権威主義的開発体制下での社会保障）が研究報告を行いました。

阿部文夫氏は以下のような内容で報告しました。「力強い成長で奇跡と謳われた東アジア諸国では、政府主導の開発政策により市場の形成と管理が行われました。しかし、加速するグローバル化は、国際分業体制の進展やFDIの増加と同時に、投機的短期資金移動の急増をもたらし、1997年の通貨危機に繋がることになりました」。

光州市（仙台の姉妹都市）は、古代から農業が盛んで豊かな文化を育んできました。同時に、1980年に非常戒厳令が全国拡大された時、全南大学校門前での軍との衝突が市民を巻き込んだ民衆抗争（いわゆる光州事件）に発展した痛切で峻厳なる民主化闘争の歴史を持っています。こうした人々の文化・行動規範が現実の今日の社会基盤に深く影響していることを実感した光州市でのセミナーでありました。

学生街を歩く

Quartier Latin T.G.U.

東北人のルーツを見る!知る!探る!

東北歴史博物館



東北歴史博物館は、東北学院大学多賀城キャンパスの北西、JR東北本線国府多賀城駅の南隣にあります。1階の総合展示室（常設展示）には、旧石器時代から近現代までの宮城県を中心とした東北地方の歴史と文化の様子を示すさまざまな資料が展示されており、東北に暮らす人々のあゆみを知ることができます。

なかでも奈良時代に東北地方の行政と軍事の拠点として当地域に設置された「多賀城」については、出土資料のほかジオラマや復元資料などを通じて詳しく展示されており、当時の様子を知ることができます。

年に数回開催される特別展では、東北地方の歴史や風土を中心としたテーマの他、世界史的な視野に立った展示も行なわれ、体験教室や講演会などの関連行事もバラエティに富んでいます。

また、3階には東北地方を中心とした市町村史などの郷土史関係図書や各種報告書等、約8万点を収蔵する「図書情報室（閲覧可能）」や、火おこし体験など10数種の歴史体験ができるワークテーブルや、映像の中にボタン操作で参加できるインタラクティブシアターなどがある「こども歴史館（利用無料）」があり、子どもから大人まで楽しく利用できる生涯学習施設として利用されています。

敷地内に移築・復元された江戸時代の民家「今野家住宅（県指定有形文化財）」は、昔の暮らしぶりを肌で感じられる空間です。囲炉裏では毎日火が焚かれ、薪割りの光景を目にすることもあります。囲炉裏の火で燻された匂いは、茅葺き家屋での生活を知っている人はもちろん経験のない人にも、不思議となつかしさと癒やしを感じさせてくれます。

「東北歴史博物館」

OPEN 9:30～17:00（発券は16:30まで）

休 日 毎週月曜（祝日等を除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

駐車場 191台（駐輪場104台）

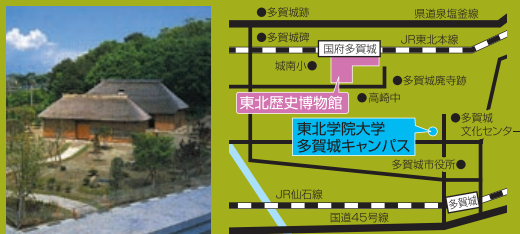
宮城県多賀城市高崎一丁目22-1

TEL:022-368-0101（代）

FAX:022-368-0103

URL <http://www.thm.pref.miyagi.jp/>

E-MAIL thm-service@pref.miyagi.jp



日本の伝統を守りながら 世界に通用する 懐石料理を創り出す

麻布十番 料亭 橘花樓 庵主

きつ うち よし お

橋内 義雄 氏

1953年、日本一の鮭漁港、塩竈市の花街にある老舗料亭「橘屋」の三代目として生まれる。小さい頃より厨房内を遊び場として過ごし初代、二代目から料理の本質と日本文化の教育を受ける。1972（昭和47）年 東北学院大学法学部法律学科入学、1976（昭和51）年卒業。大学卒業後、日本料理の修業を始める前に4年間ほどイタリア・フランスを中心に各地を回って欧州食文化の見聞を広める。その時期に日本文化・日本料理の位置づけが世界的にも非常に高いことを再認識し、帰国後京都などで更に修行を積み重ねる。1999年、神宮前に「露地草庵」の茶室をイメージして造られた「露庵たちばな」を開店。2003年、麻布に「橘花樓」として移転する。エッセイなどの執筆、陶芸・骨董・音楽やダイビング・乗馬などのスポーツにも精通。

本学に入学したきっかけは何ですか—

祖父と父が中学・高校・大学のOBだったので、当たり前のように東北学院に行くものだと思っていました。私は中学から、弟は高校、兄は大学からの入学で、4人兄弟全員“学院大”の同窓生です。

大学4年間で一番印象に残っていることは—

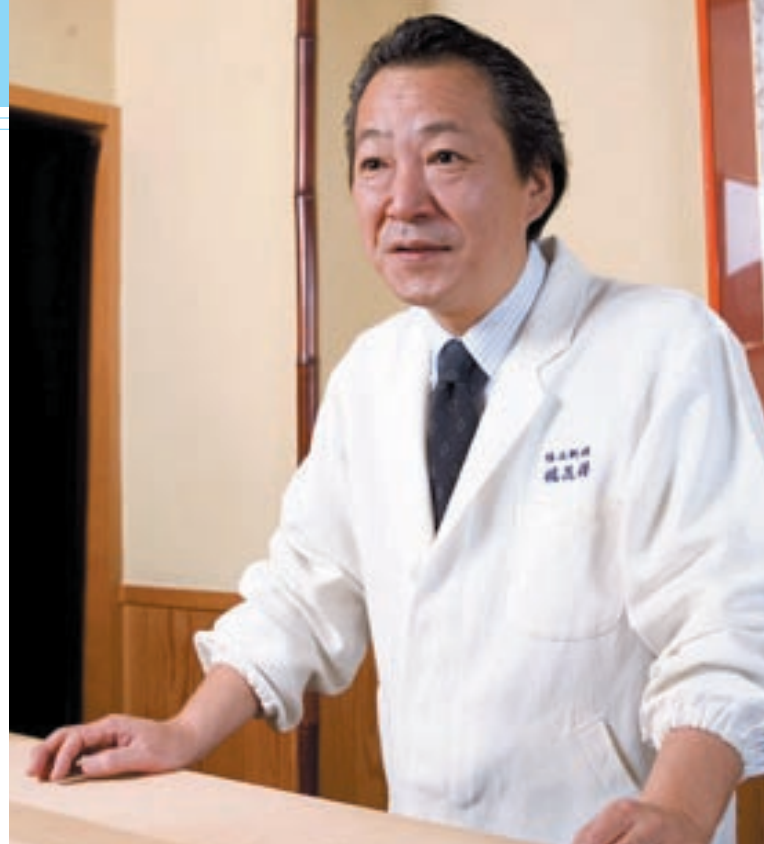
大学時代は、アイビーファッション、ジャズ、スポーツに明け暮れる毎日でした。入学時から2年次までは大学のゴルフ部に所属し、その後東北学院大学と宮城学院大学とでモダン・テニス・ソサエティ(MTS)というサークルを立ち上げ、仙台市内の大学生を集めてテニスやゴルフをしたり、ダンスパーティーを開催していました。当時、一橋大学の学生だった田中康夫さん(前長野県知事)と頻りに連絡を取り合い、仙台と東京の大学間で何かやろうかと話し合っていました。結局実現はできませんでしたが。

現在の仕事に就いたきっかけは何ですか—

実家が料亭を営んでいた関係で、幼い頃から身近だった外食産業を学ぼうと4年程ヨーロッパ遊学をしたのですが、現地で日本の食文化について尋ねられた時に、何も答えられなかったのです。フランスやイタリアの、大学を出ているある程度の学識がある人なら、自分たちの食文化や歴史に関してきちんと話すことができるのですが、自分にはできなかつた。カルチャーショックでしたね。それから私の日本再発見の勉強が始まりました。様々なことを調べていくうちに日本の文化は世界と対等どころか優るものであることに気づき、日本料理の中でもより深く文化を理解することが求められる懐石料理の世界に入ろうと思ったのです。

現在の仕事内容についてお聞かせください—

ヨーロッパ遊学から帰国し、京都の料亭で料理修行後、指導・経営に携わって経験を積み、1999年に神宮前に「露庵たちばな」を開店、2003年麻布十番に料亭「橘花樓」として移転しました。現在は、若手に伝統を引き継ぐ指導を主に行っています。懐石料理といっても、古典にばかりこだわっているのは、嗜好が多様化している東京ではやっていけません。常に新しいことを取り入れな



から、伝統もしっかりと受け継いでいくことが求められるのです。土地柄、外国人のお客様も多いのでフレンチのシェフに学びながら日々研鑽を積んでいます。多くの人に喜んでもらえるように。

大学での4年間は現在の仕事に どう活かされていますか—

大学の4年間は、社会に出る前の準備期間として大きな意味のあるものでした。在学中に友人と立ち上げたアイビーファッションのVANショップの経営は、人とのつながりや社会の仕組みを知る上で大変貴重な経験になりました。

後輩たちへのメッセージをお願いします—

もちろん勉強が一番大切ですが、それ以外のプライベートな時間は、思いっきり好きなことをやってほしいです。音楽でも食べ物でも、ファッションでも何でもいから、たくさんのことを吸収して、自分の年輪としてください。将来、必ず役に立つ時がきます。まずは好奇心や興味をもつことから始めてください。

shop data

懐石割烹 橘花樓
〒106-0045 東京都港区麻布十番3-3-13
TEL.03-5484-6333 <http://www.kikkaro.jp>

宮城県村田町賀籠沢遺跡の発掘調査と研究

—大学院・学部生と共に流す汗の結晶—

佐川正敏ゼミナル

〔大学院文学研究科アジア文化史専攻・文学部歴史学科〕

大学院文学研究科アジア文化史専攻と文学部歴史学科の佐川ゼミナル生は、2003年から2006年まで村田町の賀籠沢遺跡で約2万年前の旧石器を発掘調査してきました。旧石器人にとって石器は不可欠の道具であり、石器作りに適した石材の獲得も最重要な作業でした。賀籠沢の周辺には、玉髓というガラス質の石材を含む珪化木がたくさん埋没しています。旧石器人はそれを収集しては、賀籠沢などに持ち込んで割り、石器の材料となる短冊形の「石刃」を剥ぎ取っていました。賀籠沢にはその過程で発生した大量の石の欠け「剥片」とその母体である「石核」が、若干の石刃とともに残されており、その出土総点数は県内旧石器遺跡中最多の約1500点に達します。しかし、大多数の石刃とそれを加工して完成された槍などの道具類は、ほとんど残されていません。それは、賀籠沢が石刃を剥ぎ取る段階の製作場であって、大多数の石刃は賀籠沢外にある複数の家族が暮らすベースキャンプに持ち帰り、槍やその他の加工具に仕上げられていたからだと推定されます。今後はそのようなベースキャンプの性格をもつ遺跡を探して、発掘調査する必要があると考えています。

旧石器人が石器作りに利用した石材には、日本列島の各地域においてメジャーなものがあり、それらは岩脈を形成するなど産出範囲が広く、産出量も非常に多いのが特徴です。北海道東部や長野県の黒曜石、山形県の頁岩、奈良県から瀬戸内地域のサヌカイト（安山岩の一種）が有名で、その周辺に分布する遺跡を大規模原産地遺跡といいます。黒曜石とサヌカイトはその化学分析によって産出地点を特定することができますので、これらのメジャーな石材は人の移動や交易によって流通した範囲も広いことがわかっています。これに対して賀籠沢周辺で産出するローカルな石材である玉髓の量は、メジャーな石材には及びません。しかし、このようなローカルな原産地遺跡の調査研究は、従来ほとんど手付かずの分野でしたので、賀籠沢遺跡の研究は、旧石器人の石材交換や移動の範囲の実態をマイクロな視点で解明する上で非常に重要であり、旧石器考古学界からも注目されています。

現在、院生と学生は石刃の剥ぎ取り方を復元するために、大量の石器をジグソーパズルのように接合する気の遠くなるような作業を忍耐強く続けています。発掘現場と室内整理で流す彼らの汗の結晶が、1～2年後には報告書や論文となり、旧石器考古学に新たなページを開くことになるでしょう。



発掘調査風景

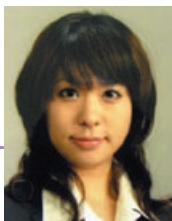


1石刃の接合 2～4石核

就職部より Placement info.

インターンシップで知った “営業”という仕事の本質

株式会社リクルートのインターンシップに参加して



えんどう あいり
法学部法律学科3年 遠藤愛理

リクルートさんのインターンシップでは営業に同行させていただきました。営業に同行して一番勉強になったと感じたのは、企業の人事部の方等のお話を直接聞けたことでした。例えば“今、企業はどういった人材を求めているのか”ということなどを知ることができました。面接をする立場の方の意見や考え方を知ることが、これから就職活動をしていく上でとても参考になりました。

そして営業に同行したことで営業職に対するイメージも大分変わりました。以前は営業と聞くとノルマがあったり、会社の商品を頼み込んで買ってもらおうというような、どちらかというとマイナスのイメージをもっていたが、実



インターンシップ報告会

際は“商品を売る”といった一方通行ではなく、お客様と協力しあった結果、お互いのためになっているように感じられました。インターンシップに参加する以前は、“就職”という事に関してイメージがわいてきませんでした。参加して様々な体験ができたことで、就職活動に向けて一歩前進することができました。

土樋キャンパス就職課

TEL.022-264-6481 FAX.022-264-6486

多賀城キャンパス就職係

TEL.022-368-1101 FAX.022-368-1118

泉キャンパス就職係

TEL.022-375-1161 FAX.022-375-1534



OUPANOS (ウーラノス)は「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、「わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています」(フィリピの信徒への手紙1章18-19節)と語り、私たちがキリストに倣う者となるように奨励しています。この個所にも οὐρανός の語が用いられています。

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、右記事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6467
FAX.022-264-6510

【募金目標額20億円】

- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校体育館
および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学基金の増額

学校法人 東北学院

東北学院大学

■土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科
法務研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、
夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス

大学院:工学研究科
学 部:工学部
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科
学 部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.24

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	高橋 征士
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教部長	佐々木 哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部助教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	淡野 照義
	教養学部教授	木戸 真美
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課係長	山本 隆夫
	総務部総務課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌「OUPANOS (ウーラノス)」に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成19(2007)年2月20日
編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会
発 行 東北学院大学
〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030
30 URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
E-mail tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
印 刷 (株)エイエイピー



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています